



栗東市

観光マーケティング計画 2022-2024（案）





目次

1. 計画策定にあたり

2. 計画の概要

- ・計画の関係性
- ・SDGsへの貢献
- ・Mother Lake Goals (MLGs)
- ・持続可能な開発目標に向けて

3. 栗東市の観光状況分析

- ・全体的な傾向
- ・観光予測
- ・国内状況
- ・県内状況
- ・市内の現状
- ・来訪者の現状
- ・まちづくりの課題
- ・観光振興における課題

4. 戦略

- ・行動指針と戦略的選択
- ・戦略の4つの柱
- ・豊かな自然資源の活用
- ・歴史・伝統文化の継承
- ・地域社会との共生
- ・地域ブランドの形成

表紙と裏表紙

上；雲海と滋賀日産リーフの森
下；金勝寺の苔たち

左；荒張 里山の風景





1. 計画策定にあたり

栗東市は、固有の自然、歴史、文化など数多くの地域資源を有しています。「地域資源」とは、特定の地域に存在する特徴ある活用可能なものの総称であり、広く一般に認知され、その価値を見出し活用することによって地域の活性化に結び付けることが可能なものを指すとされています。これまで、2015（平成 27）年には「栗東市地域資源活用ビジョン」が策定され、様々な地域資源を活用した取り組みが行われてきました。

今後、さらに「まち」の発展を持続的なものにしていくために、魅力ある市内の地域資源をより効果的に活用し、まちの強みとして発信することにより、地域への誇りと愛着を育み、地域活力の創出に結びつけていく必要があります。2020（令和 2）年 3 月の第六次栗東市総合計画策定時に実施された市民意識調査における「地域資源を活用した観光振興のまちづくりが推進されているか」との設問では「推進されていると思う市民の割合」が 24.6%と全体の 1/4 に満たない現状です。（※第六次栗東市総合計画；巻末参考資料より）

この計画は、第六次栗東市総合計画前期基本計画「政策 1. 経済の安心を生み出す」「施策 4. 観光の振興」や、おなじく 2020（令和 2）年策定の第四次栗東市都市計画マスタープラン「第 4 章地域別まちづくり構想」、栗東市シティセールス戦略改訂版「IV具体的な推進戦略」「1.基本戦略（2）-①地域資源活用ビジョンの推進」などにおける栗東市の魅力となる地域資源を十分に活用した施策の推進、また、2020（令和 2）年 3 月に策定された栗東市観光振興ビジョンにおける「戦略的なマーケティングによる効果的な施策の実施」による観光を起点とした地域経済の活性化の推進のために、一般社団法人栗東市観光協会が策定したものです。



私たち一般社団法人栗東市観光協会（以下、「観光協会」）は、栗東市役所商工観光労政課（以下、「市行政」）と共に市域の観光振興による地域経済の活性化を目的とした非営利組織です。観光協会は、1960（昭和30）年代後半に設立され、2006（平成18）年には特名産振興会と合併を経て、2016（平成28）年より市行政の資金援助のもとプロパー職員の雇入れを開始、2020（令和2）年に法人格を取得し、一般社団法人として今日に至ります。栗東観光案内所の運営を市行政より受託し、観光案内や栗東市のプロモーションを行いつつ、日本観光振興協会、日本政府観光局（以下、「JNTO」）、公益社団法人びわこビジターズビューロー（以下、「BVB」）、湖南観光振興協議会、栗東市商工会、栗東青年会議所などの公的機関と連携、民間事業者との協力・協働により、栗東市の素晴らしい地域資源を活用しています。

観光協会は、地域内外の事業所および個人の約130名の会員によって構成され、さまざまな業種や地域を反映する事業者および個人から選出された代表理事を含む理事会によって運営しており、地域や県内外、国内の関係機関と緊密に連携・協力することにより、栗東市をプロモーションし、旅行先としての認知度を高め、来訪意欲を湧き立たせ、観光による地域経済の活性化を図っています。

一般社団法人栗東市観光協会

滋賀県栗東市手原三丁目1-30 手原駅2階

077-551-0126

<https://www.ritto-kanko.com/>

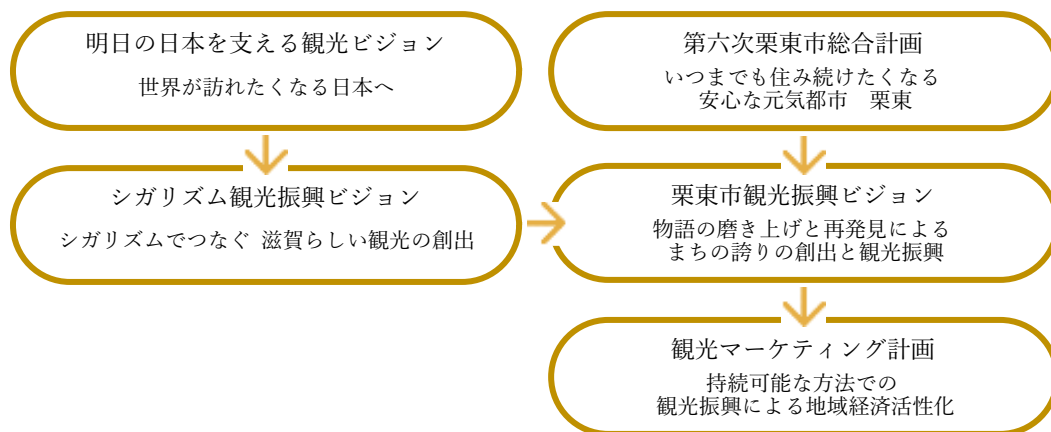


2. 計画の概要

計画の関係性

栗東市観光マーケティング計画 2022-2024 は、2020（令和 2）年の第六次栗東市総合計画を上位計画とし観光分野における個別計画として位置づけられた「栗東市観光振興ビジョン」を受け、誘客ターゲットおよび目標の設定、コンテンツ開発やプロモーションならびに受入環境整備のための計画として、持続可能な観光振興による地域経済の活性化を目的に策定いたしました。この計画は、日本政府の目指す「観光先進国」としての取り組みや、滋賀県の進める「シガリズム観光振興ビジョン（仮）」とも連携し、地域資源の磨き上げを行い独自性の高い魅力創出に取り組み、地域の価値を高め栗東市の魅力を安心して快適に楽しめる環境を整えることに貢献します。栗東市観光振興ビジョンの基本理念である「物語の磨き上げと再発見による、まちの誇りの創出と観光振興」を軸に地域資源を積極的に活用し、観光協会を中心に市民や事業者、各種関連団体と共に栗東ならではの個性ある地域の魅力づくりを進め、栗東市の目指す都市の姿「いつまでも住み続けたいくなる安心な元気都市」の実現を目指します。

図：計画の位置付け



SDGsへの貢献

栗東市の目指す都市の姿「いつまでも住み続けたいくなる
安心な元気都市」の実現には、持続可能な観光振興が必要
であると考えます。

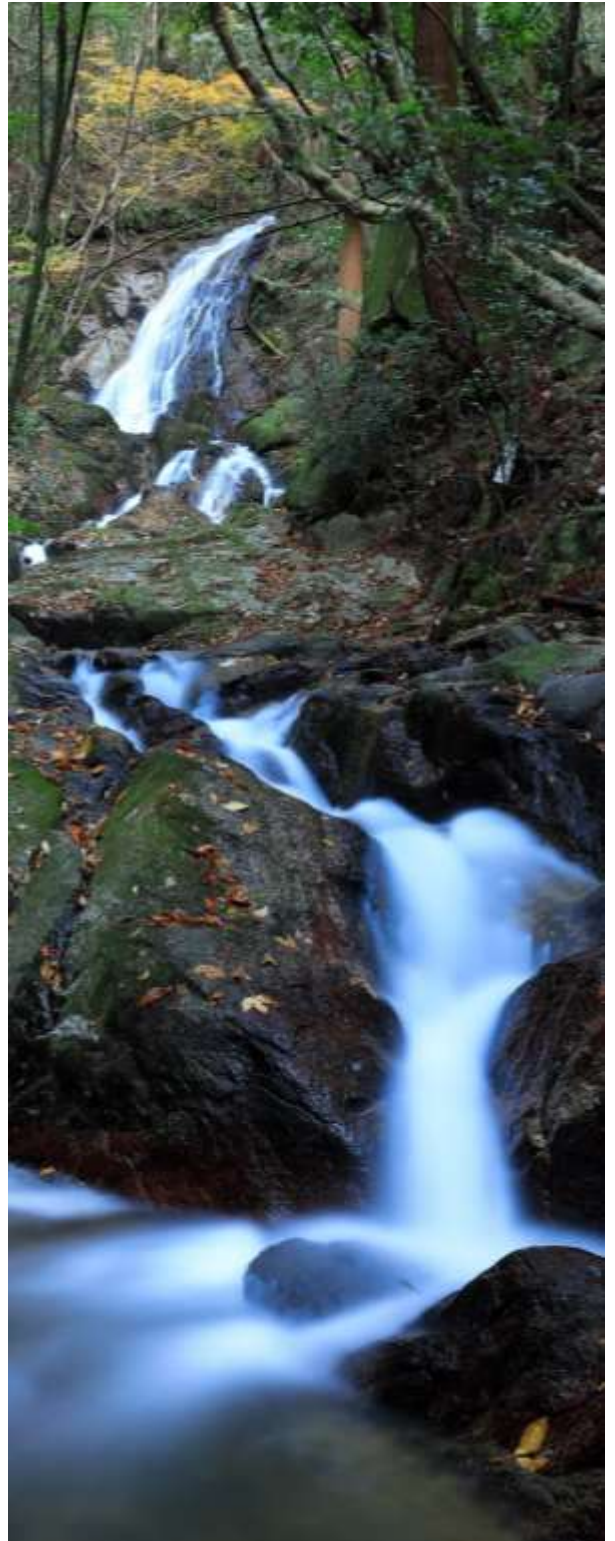
JNTO は、2021（令和 3）年に「SDGs への貢献と持続可
能な観光（サステナブル・ツーリズム）の推進に係る取組
方針」を策定され、観光を取り巻く国内外の環境の変化を
捉えたサステナブル・ツーリズムの推進を強化しています。

サステナブル・ツーリズムとは、「訪問客、産業、環境、
受け入れ地域の需要に適合しつつ、現在と未来の環境、社
会文化、経済への影響に十分配慮した観光」と国連世界観
光機関（以下、「UNWTO」）は定義しており、様々な活動
を通じてその重要性を観光に携わる世界の関係者に発信し
ています。SDGs において、経済成長と雇用に関する「目標
8」、消費と生産に関する「目標 12」、海洋資源に関する「目
標 14」の 3 つの目標において、観光の役割が明記されたタ
ーゲットが設定されていますが、UNWTO は、観光はすべ
ての目標に対して直接的または間接的に貢献する力があり、
重要な役割を担っていると宣言しています。2019（令
和元）年に北海道倶知安町で開催された G20 観光大臣会合
において、観光は「経済成長の牽引」と「SDGs に対する貢
献」の両方に資することが確認されました。

2020（令和 2）年に入り新型コロナウイルス感染症が全
世界で流行し、観光業界も大きな打撃を受けています。こ
の年の国際旅行者数は激減し、UNWTO や国際航空運送協
会（以下、「IATA」）によると 2019（令和元）年の水準に旅
行需要が回復するには、2024（令和 6）年以降まで時間か
かる見込みが示されています。

コロナ禍を経て、人々の旅行に対する意識も変化しつ
つあり、各種調査において、旅行者が、旅行先で新型コロナ
ウイルス感染症対策が確実に行われていること、緊急時の
受入体制が整備されていることに加え、混雑を避けて自然
やアウトドア体験を求めたり、受入地域の社会や環境に配
慮しようとするといった動きが加速していることが明らか
になっています。

このような、世界的な潮流の中、観光協会は市行政と共
に、栗東市観光振興ビジョンの基本理念である「物語の磨
き上げと再発見による、まちの誇りの創出と観光振興」を
軸に地域資源を積極的に活用し、市民や事業者、各種関連
団体と共に栗東ならではの個性ある地域の魅力づくりを進
めます。



九品の滝

栗東市南部井上にある全長 120m にもおよぶ湖南地域最大の滝。
仏教用語の九品浄土を想起させることからその名がついた。



Mother Lake Goals

Lake Biwa, Shiga, Japan



Mother Lake Goals (MLGs)

滋賀県は、Mother Lake Goals (マザーレイクスゴールズ、以下「MLGs」) を「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」を参考に、取組の目標やターゲット、指標のほか、基本理念や推進体制等を記載した提案文書「マザーレイクスゴールズ (MLGs) アジェンダ」を作成されました。

MLGs とは、琵琶湖を切り口とした 2030 (令和 12) 年の持続可能社会への目標であり、「琵琶湖版の SDGs」です。SDGs の視点から見ると、琵琶湖を通じて SDGs をアクションまで落とし込む仕組みが MLGs であり、MLGs の取組は SDGs の達成に貢献するものと言えます。MLGs からの視点で見ると、琵琶湖を通じて、石けん運動以来 40 年にわたる県民等多様な主体による活動が SDGs につながっていることを発見する仕組みと言えます。

2019 (平成 31) 年は、例年冬に琵琶湖北湖で見られる全層循環が、観測史上初めて確認できず、翌年も 2 年連続で確認できませんでした。地球温暖化の影響を受け、全層循環が未完了になる時がくることは環境省のシミュレーションにおいても予測されていましたが、それは 2030 年代と考えられていました。このように、気候危機は、最新の科学的知見の予測を超えて加速しています。全層循環の未完了は、琵琶湖が流域に住む人々の暮らしを映す「鏡」であるのみならず、世界中の人々の生活によって引き起こされる地球規模の環境変化を見通す「窓」でもあることを示しています。琵琶湖の環境保全の取組は、単に一つの湖の環境を守るためのものではなく、地球規模で誰一人取り残さない持続可能な社会をつくるための取組と分かちがたいものとなっているとアジェンダに記載されています。

持続可能な開発目標へ向けて

観光が、これまで以上にその生み出す負荷や悪影響を軽減し、「旅行者から選ばれる観光地」となるため、地域全体で環境の保全や伝統・文化の保存・継承等につながる旅行、サステナブル・ツーリズムを推進することが求められる時代が来ています。

私たちが目指すこと

観光協会は、持続的な地域経済の発展、地域の活性化、地域間の相互理解促進、
りっとうブランド向上を実現することにより、
栗東市の未来をより豊かに、元気に、明るくすることを目指します。

私たちが果たすべき役割

観光協会は、市内外の関係者と連携し、公正性・透明性を保ち、
自然資源の活用、歴史文化の継承、地域社会との共生を通じ、
栗東市の持続可能な観光振興を推進する
中核的な存在としての役割を果たします。







3. 栗東市の観光状況分析

観光協会は、2016（平成 28）年にプロパー職員の雇入れを開始し、以降、りっとう市民秋まつり開催をはじめとして、各種事業を積極的に展開し、2020（令和 2）年には法人格を取得しました。その成果もあり、栗東市の観光入込客数は順調に進捗しています。

全体的な傾向

UNWTO のデータによると、2020（令和 2）年の国際観光客到着数は 74%減少し、世界の国および地域は、前例のない需要の減少と、観光を目的とした広範な渡航の制限（以下「渡航制限」という。）により、国際到着数が前年比で 10 億人減少したとしています。

また、移動の制限、ワクチン接種率、旅行者の信頼度などが異なるため、世界の各地域で回復のペースは依然として遅く、ばらつきがあるとも。ヨーロッパとアメリカでは、2021（令和 3）年に 2020（令和 2）年比で最良の結果を記録したが（それぞれ 19%増および 17%増）、それでもパンデミック前の水準よりも 63%下回ったとしている。アジア・太平洋の地域では、多くの国および地域で不要の旅行が禁止されているため、到着数は依然として 2020（令和 2）年の水準を 65%下回り、パンデミック前と比較すると 94%と大きく減となっています。

観光予測

UNWTO 専門家委員会によると、ほとんどの観光専門家(61%)は、2022（令和 4）年の見通しは良くなるかと予測しています。58%の専門家が 2022 年、主に第 3 四半期での回復を見込んでいるのに対して、42%は 2023 年以降の回復の可能性を指摘しています。現在、多数の専門家（64%）は、国際観光客到着数が 2019 年の水準に戻るのには 2024 年以降になると予測しており、これは前年の 9 月の調査結果（45%）よりも増加したとしている。

最近の COVID-19 感染者数の増加とオミクロン株により、一部の国々で特定の市場に対する渡航の禁止や制限が再び導入されたため、2022（令和 4）年の年初の回復を妨げ、信頼感に影響を及ぼすと考えられています。同時に、ワクチン接種の普及には依然としてばらつきがあり、主にアジアおよび太平洋地域を中心に、多くの国および地域で依然として国境が完全に閉鎖されたままとなっている。原油価格の高騰、物価上昇、潜在的な金利の上昇、多額の負債、サプライチェーンの継続的な混乱などに加え、ウクライナ情勢の悪化による厳しい経済環境が国際観光の効果的な回復を更に圧迫しかねない状況である。

しかし、徐々に国際観光が回復する中で、国内旅行はますます多くの国および地域、特に大規模な国内市場を有する国や地域における観光セクターの回復を牽引し続けており、専門家によると、国内旅行や近場への旅行だけでなく、野外活動、自然を楽しむ観光商品は、今後の観光を引き続き形成する主要な観光トレンドの一つであるとされています。

国内状況

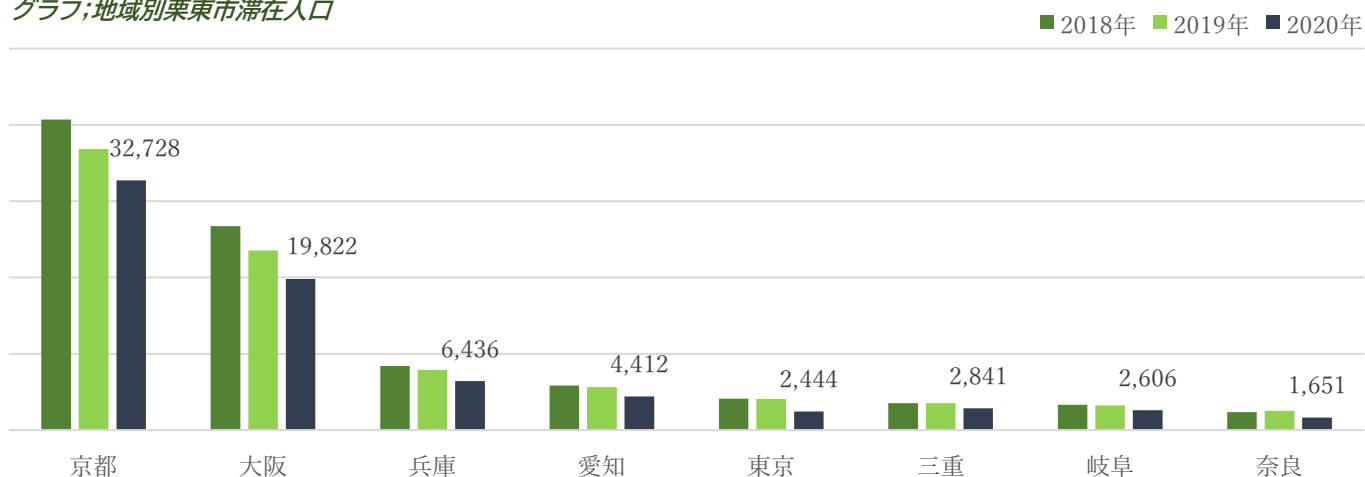
日本政府は、2016（平成28）年3月に「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し、訪日外国人旅行者数を2020（令和2）年には4,000万人、訪日外国人旅行消費額を8兆円、さらに2030（令和12）年にはそれぞれ6,000万人、15兆円とするなどの目標を掲げて様々な取組を進めてきました。ビザの戦略的緩和や訪日外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充、税関、出入国管理、検疫所体制の充実といった改革を進めるとともに、航空・鉄道・港湾等の交通ネットワークの充実、多言語表記をはじめとする受入環境整備、魅力的なコンテンツの造成、日本政府観光局等による対外プロモーション等により、訪日外国人旅行者数は、7年連続で過去最高を更新しました。

しかし、2020（令和2）年1月以降、COVID-19の世界的な拡大を受け、国は水際対策の強化、イベント中止等の要請に加え、4月には全都道府県を対象に緊急事態宣言を発令し、外出自粛要請や休業要請等、感染拡大防止に向けた取組を進めてきました。その結果、旅行控えなどが生じたことにより、2020（令和2）年の日本人国内旅行者数は、延べ2億9,341万人（前年比50.0%減）と減少し、また、各国や各地域においても水際対策が強化された影響等により、訪日外国人旅行者数も大きく減少し、前年比87.1%減の412万人となりました。

県内状況

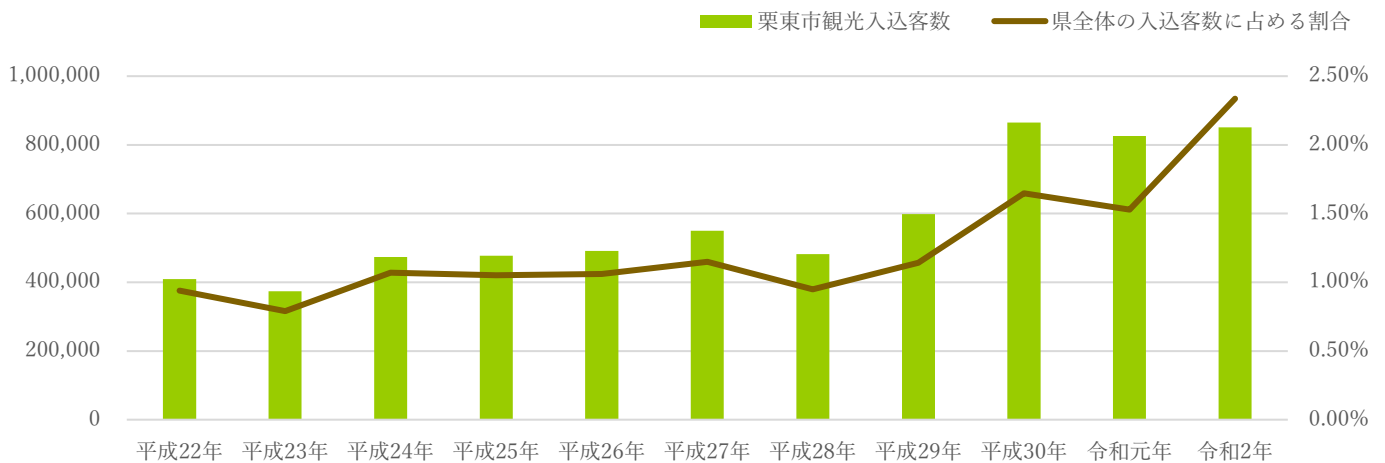
滋賀県内においても、COVID-19の影響により外出自粛や、多くの観光施設で閉館、休業、入場制限等がされたこと、花火大会や祭りなどの大規模なイベントが中止になったこと、外国人の入国制限等の措置が取られた影響などにより、2020（令和2）年の延べ観光入込客数は大幅に減少しました。その中で、国のGo To Travelや県の宿泊周遊キャンペーン「今こそ滋賀を旅しよう！」等の施策により一時は回復傾向となりましたが、第2波、第3波と再び感染者が増加した影響により、2019（令和元）年の水準まで回復するには至りませんでした。2021（令和3）年にはいっても、全国的な感染拡大が続き、8月には滋賀県で再び緊急事態宣言が発令されるなど非常に厳しい状況が続いてきました。その中でも、COVID-19の感染状況を踏まえながら、県民を対象とした宿泊周遊キャンペーン「今こそ滋賀を旅しよう！」を展開するなど、観光需要の回復に向けた取組を進めてこられましたが、2020（令和2）年の滋賀県の延べ観光入込客数（日帰り客数および宿泊客数の合計）は、2019（令和元）年より32.6%減少し3,641万人、外国人延べ観光入込客数は82.5%減少し11.8万人となり、うち外国人延べ宿泊者数は88.2%減少の4万人となっています。

グラフ：地域別県東市滞在人口



出典：「RESAS（まちづくりマップ・地域別滞在人口分析）」より

グラフ;栗東市観光入込客数推移と県入込客数に占める割合

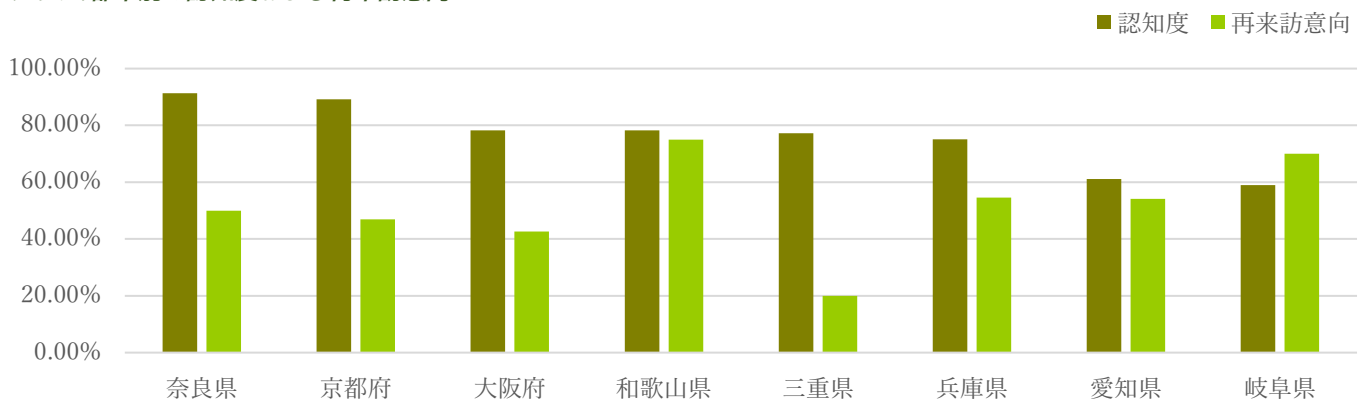


出典：「滋賀県観光入込客統計調査」より

市内の現状

観光による地域の活性化において、市民や事業者をはじめ、関係団体が一体となり市行政とともに、まちづくりの一環として取り組むことで、まちへの愛着と来訪者を迎え入れる意識を育み、いつまでも住み続けたい、かわり続けたい、訪れたいと思われることが大切であると考えます。2018（平成30）年度の調査によると、「地域資源を活用した観光を振興するまちづくりが推進されている」と回答した市民は、3割に満たない24.6%しかいませんでした。これは、第五次栗東市総合計画後期基本計画に記載されていた成果指標（アウトカム指標）の2019（平成31）年度末目標値30.0%に及ばない数値となっています。目標数値は、2014（平成26）年の計画策定時に設定されたもので、基準（実績）値は22.1%でした。

グラフ;都市別の認知度および再来訪意向



出典：令和3年度「栗東市観光認知度アンケート調査」より

来訪者の現状

観光による地域の活性化のためには、来訪者に満足していただくことが重要です。満足をすることでその人がまた来訪をしてくれるだけでなく、家族や知人におすすめをしてくれるだけでなく、Instagramをはじめとしたソーシャルメディアによってより多くの人にその情報が行き渡ることになります。令和3年（2021年）の調査によると、栗東市の再来訪意向度は、「とてもまた行きたい」「ややまた行きたい」を合わせた数値が46.4%と半数に満たないことが分かりました。

満足度向上による再来訪意向の高まりは栗東市への愛着を生み出し、りっとうの魅力や評価を再認識し、より良い地域づくりや、さらなる魅力向上につなげることができます。

第六次栗東市総合計画におけるまちづくりの課題

- ・少子高齢社会において、安定的な人口総数や年齢構成の実現に向けた、人口定着やＵターン、あるいは新規定住に向けた戦略の展開など、いつまでも住み続けられる、持続可能なまちづくりへの取り組み。
- ・まちの魅力発信や都市イメージの向上に向けて、固有の自然や歴史、文化など数多くの魅力的な地域資源を活かした市民協働、産学公の連携による魅力あるまちづくりを進めること。
- ・まちの賑わいや活力の創出、産業の持続発展のため、地域事業者の活性化、新たな産業の創出や誘導など、雇用や税収の安定的な確保に向け、持続可能な経済発展のための取り組み。

観光振興における課題

- ・まちづくりの一環としての観光を展開し総合的な力を発揮し、まちへの愛着と来訪者を温かく迎え入れる意識を育むための、市民や事業者、行政および関係団体が一体となり取り組む組織体制の構築強化。
- ・多様な観光需要に応えるため、環境や社会構造の変化に対応するための調査、分析への取り組み。
- ・経済波及効果を高め地域の経済循環の向上を図るため、滞在中の消費を喚起する取り組み。
- ・国籍や年齢、性別等を問わずだれもが安全に安心して滞在できるように多言語対応やバリアフリー、ユニバーサルデザインの導入など、利便性および安全性の確保に向けた環境づくり。

新たな技術

新たな技術は、開発されるたびに、それまでに顕在していたさまざまな課題や多くの問題解決に貢献してきました。仮想現実と拡張現実、ビッグデータやデータ分析の進歩、5G（次世代ワイヤレス）およびその他の新たな技術により、より効果的、より正確に来訪者をターゲットにすることができるよう可能性があります。

また、来訪者の行動や市場動向の把握、安全性の向上にも貢献できる可能性があります。

地域の潜在能力

栗東市に点在する地域資源はそれぞれがそれぞれの魅力を有しており、これらの魅力を最大化しつつ、うまく組み合わせ、テーマやストーリーを明確にすることで、栗東市ならではの独自性の高い価値創出につながり、来訪者を満足させる可能性があります。栗東市には、古くから受け継がれてきた伝統や文化が地域に根付いており、寺社仏閣や古墳群などの歴史遺産が数多く存在しており、金勝山ハイキングコースには国指定史跡の狛坂摩崖仏が旧東海道沿いには旧和中散本舗があります。

そのため、栗東の今ある観光素材を再発見・再評価するとともに、栗東市ならではの本物に触れられる、テーマ性の強い体験型・交流型の旅行を創出し、栗東の良さや魅力を発信していくことで新しい時代に選ばれる栗東の実現を目指します

栗東市観光振興ビジョン想定数値（令和５年）

観光入込客数	観光消費額	経済波及効果
1,200,000人※	17億円※	23億円※

※注 数値は観光振興ビジョン策定（令和２年３月）時点の数値



花笠踊り

下戸山にある小槻大社にて
毎年5月に行われる。

4. 戦略

この計画の進行管理・運営を観光協会が担うことを対象に、主に単独で実行できること、そして次に行政機関をはじめとした他の関係機関と協力・協働で何をするかに焦点をあてています。

栗東市の観光客受入環境には、観光協会だけでは果たすことができない多くの要求や要望があり、道路や観光案内看板の改善、公園などの清潔な公衆トイレ、二次交通網の整備、およびその他の公共施設の整備などが含まれます。これらの要求や要望に対処し改善していくことは、栗東市を訪れる観光客のみに限らず市内在住者にも利益をもたらします。これらの多くは、栗東市や滋賀県、運輸局など他の行政機関の協力が必要不可欠です。

旅行者のニーズが多種・多様化しつつある状況においては、豊かな観光資源を有し、大都市に非常に近い立地でありながら豊かな自然や伝統ある文化が存在する栗東市の強みを活かした安全安心な新しい旅のスタイルの展開が必要となります。

観光協会の責任と役割

観光協会は、「第六次栗東市総合計画」におけるまちづくりの課題解決に向け次のことを行います。

- ・魅力ある地域資源をより有益な観光資源として、観光客を魅了し惹きつけるように他の機関と協力・連携して自然と伝統文化の資産を強化することにより、地域の住民と観光客の双方が評価する事業に積極的に取り組みます。
- ・地域経済を観光振興により支援、援助することで栗東市の観光を牽引します。観光の振興による地域経済への貢献度を伝えます。
- ・栗東市の「ブランド」を形成し育み、価値を高めます。
- ・地域の住民の声に耳を傾け、事業者、地域社会、行政と協力して地域の課題解決、地域経済の活性化に向けて観光振興に取り組みます。

行動指針と戦略的選択

戦略的選択、観光資源管理の明確化

観光協会は、他の組織と同様に限られた資源・資産を最大限に利活用する方法について戦略的な選択を行う必要があります。栗東市の地域経済を観光により活性化させるために栗東市ブランドの形成に注力していきます。これらを観光客の目的地となる観光資源の管理に重点を置くことで、以下の取り組みを進めていきます。

観光協会は、観光地域づくり法人（地域DMO）の認定に向け、観光需要の回復や観光による地域経済の活性化に向けての舵取り役として、多様な関係者と連携し地域の観光資源を磨き上げること以外にも、観光人材育成やビッグデータ活用による観光マーケティングなど、DMOとして求められる役割を発揮していきます。

- ・現在、栗東市ならではの地域資源を地域に利益をもたらすものとして強化することに、より多くの時間と労力を割いています。事業運営にあたり、より大きな社会的および経済的利益を生み出す観光客を惹きつけ魅了することに重点を置いています。
- ・地域経済の活性化を強調しますが、自然や文化的資産への悪影響は最小限にとどめなければなりません。観光入れ込み客数の増加のみを目的とするのではなく、観光消費額の増加に注力しながらも住民満足度と来訪者満足度の双方および環境への負荷、影響を管理していきます。
- ・地域経済の活性化に向け、さまざまな観光関連の課題に対応し栗東市に貢献します。
- ・公的機関や事業者、その他関係機関との協力や連携を通じて、市域での観光資源の利活用やその計画と管理により深く関わる方法を模索し、観光客の目的地となる観光資源の管理のための総合的で統制された仕組みの構築に注力していきます。これには、さまざまな課題や懸念に対して継続して取り組む必要性があります。市民と来訪者のための社会的、文化的、環境的活動を支援し強化する組織となります。



観光協会のマーケティング計画の焦点

第六次栗東市総合計画の観光振興における基本方針および栗東市観光振興ビジョンにおける基本的な方向性を踏まえ、観光協会は次のことに焦点をあて、この計画に取り組みます。

- ・ より多くの支出が見込める観光客を呼び込むことを目的としたマーケティングおよびブランド形成。
- ・ 地域在住者と観光客と同等に利益を生むコミュニティ形成、伝統文化の継承、自然や景観の維持、観光協会主導による地域社会への貢献。
- ・ 栗東市観光振興ビジョンに基づき、成果達成に向けた市行政など公的機関や関係機関との連携を、いつ、どのように実施していくか、進捗管理。

観光協会とこの計画の体系

この計画の進行にあたり、観光協会は以下の4つの取り組みを軸に各事業を展開します。

- ・ 豊かな自然資源の活用
- ・ 歴史や伝統文化の継承
- ・ 地域社会との共生
- ・ 栗東ブランドの形成

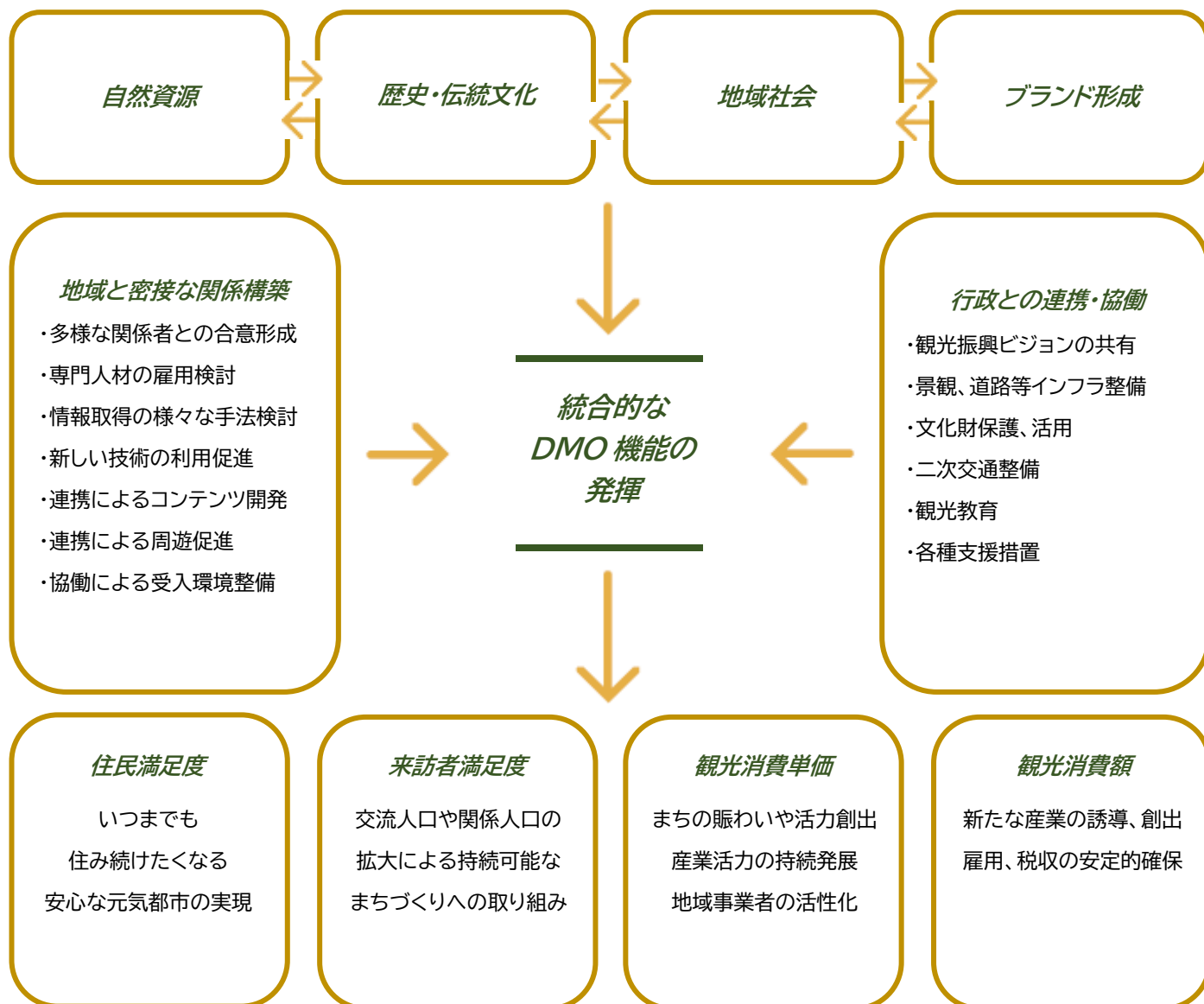
この4つの取り組みを軸として計画を構成しますが、実際には取り組みごとに運用するのではなく重複する部分や連動するところがあり、他機関との連携や協力とともに、観光協会による計画運用を強化します。

(次頁、図；計画の体系を参照。)



図：計画の体系

訪問者も在住者も





戦略の4つの柱

豊かな自然資源の活用

私たちの土地との関係の相互の性質は、私たちが私たちの自然資源を大切にし、その見返りに土地が私たちを大切にすることです。この共生関係では、人々が土地の幸福に時間と資源を捧げるので、この土地の住民と来訪者は繁栄します。

目標：森林空間をはじめとした自然資源の尊重と多面的機能の発揮

すべての居住者の生活の質を向上させ、来訪者の体験を向上させるために、豊かな自然資源と文化的サイトを強化およびサポートするプログラムにリソースを捧げます。

歴史・伝統文化の継承

国指定史跡をはじめ、数多くの重要文化財が市内に在しますが、それらに限らず地域が育んできた独特の伝統や文化が栗東市には存在します。

目標：歴史や伝統文化をよりよく後世に継承していくためにも本物の体験を提供しつづける

歴史ある伝統や文化的行事の体験を提供します。



地域社会との共生

地域にとって良いことは観光にとっても良いことです。観光、その貢献、そしてそれが彼らのコミュニティにどのように影響するかについて、地元住民との効果的なコミュニケーションが重要です。コミュニティプロジェクトに協力して支援する機会が訪れたとき、私たちは皆、集合的に、訪問者の体験を多様化するのを助けることができます。

目標：観光と地域、お互いを豊かにすること

地域住民と地域社会が観光の恩恵を受けるように努めます。観光協会の事業や、観光振興に係るプロジェクトやイベントについて、市民と来訪者の両方に共有し、その関係性を強化する。観光を通して関係人口を形成して、持続可能な回復力のある地域経済と地域社会を構築します。

栗東ブランドの形成

栗東市は、歴史ある伝統や文化と豊かな自然の風景で彩られています。これらのケアと価値の声を尊重する方法について、市民と来訪者々とを共感させ、価値の共有化を図ることが重要です。

目標：観光業の貢献を強化する

栗東市の地域特有の伝統や文化と自然環境に焦点を当て、市場に適した方法で、ブランドを形成し強化することで競争力を高め、地域経済の活性化に寄与します。

豊かな自然資源の活用

私たちの土地との関係の相互の性質は、私たちが私たちの天然資源を大切にし、その見返りに土地が私たちを大切にすることです。この共生関係では、人々が土地の幸福に時間と資源を捧げるので、この土地の住民と来訪者は繁栄します。

目標

森林空間をはじめとした自然資源の尊重と多面的機能の発揮

栗東市のすべての居住者の生活の質をより豊かにし、来訪者の体験を向上させるために、栗東市の自然資源の価値や自然と触れ合う体験を強化および支援するプログラムにリソースを捧げます。

行動指針

- ・地域や関係団体、滋賀県や栗東市と共に自然景観の保全に努め、好循環を生む利活用を図り、森林空間をはじめとした自然資源の持つ多面的機能の最大化を目指します。
- ・豊かな自然資源を有する地域において、積極的な森林空間の利活用と管理戦略に取り組み、奨励します。

戦略的選択

- ・自然に触れる機会を増大させます。
- ・この3年間で、観光客の受入環境の整備に努め、森林空間や公園、ハイキングコース、トレイルなど自然を活かした体験の改善と強化に注力します。
- ・栗東市の独自性と生物多様性を維持することで、地域の持続可能性を高め、責任ある観光振興を進めます。
- ・気候変動や環境への負荷や影響を認識し、関係組織と協力・連携して観光による地域振興を図ります。
- ・地域や関係団体、滋賀県や栗東市の行政機関、民間事業者と協力して、栗東市を環境に配慮した琵琶湖を育む優しい目的地として認識を促し、持続可能な開発目標の達成に向けた取り組みを強化します





戦術

1：持続可能な開発目標達成に向け責任ある観光を奨励し、支援します。

・戦術 1 における指標

- (a) 観光協会会員をはじめ観光関連事業者の SDG s に取り組む活動数の増加。
- (b) MLG s プログラムに参加する協会会員および事業所、団体の数の増加。

2：森林空間をはじめとした自然資源活用に積極的に取り組み、奨励します。

・戦術 2 における指標

- (a) 森林空間や地域の自然資源を活用した新規または改善されたプログラムの数。
- (b) 栗東市観光認知度アンケート調査において栗東市について興味があるもので「森林浴の森 100 選の金勝山」および「森林パーク等のアクティビティができる」と回答する割合を高める。
- (c) 市民アンケート調査における「地域資源を活用した観光を振興するまちづくりが推進されている」と回答する市民の割合の増加。

行動計画

- ・来訪者の市内での滞在時間延伸に貢献する地域資源を活かした体験コンテンツを造成します。
- ・地域内での調達率を増やすために、観光関連事業者が適切なときに域内の製品や地域で栽培された農産物を購入することを奨励する取り組みを支援します。
- ・森林をはじめとする自然環境の多面的機能を維持する持続可能なプログラムを実施します。
- ・栗東市をはじめとした行政機関、民間事業者、教育機関と協力して、自然が豊かな栗東市が環境に配慮した目的地として認識されるよう、MLG s を通じた持続可能な開発目標の達成に向け、取り組みを強化します。
- ・金勝アルプス周辺とその周辺に所在する施設のさらなる機能強化や利用促進を支援します。
- ・農林業体験や農福連携による自然環境を活用した都市農村交流による関係人口の増加、地域経済の活性化につながる取り組みを支援します。



歴史・伝統文化の継承

これまでの先人たちの努力によって守り育てられ、栗東市に関わるすべての人の生活の基盤となってきた伝統文化と、それらを構成するさまざまな伝統文化要素を含めた歴史文化を継承し活用していくことで、いつまでも住み続けたいくなるまちづくりに貢献します。

目標

地域の伝統文化、歴史遺産を後世に継承する

来訪者と居住者の双方のために、地域の歴史や伝統文化を体験する機会を通して地域社会の独自性のある魅力づくりに取り組みます。

行動指針

- ・来訪者と地域社会との関係性を強化します。
- ・これまでの歴史に敬意を払い、地域の伝統文化の継承、保存を支援します。
- ・栗東市文化財保存活用地域計画に基づき、文化財保護団体や博物館、所有者、その他の関連団体と連携して、栗東市の文化の保存と継承を支援します

戦略的選択

- ・栗東市の歴史や文化遺産を活用した域内の周遊を促進します。
- ・観光客の受入、訪問目的となる体験や活動、プログラムを作成することにより地域の文化を育むよう努めます。
- ・栗東市と地域の歴史や伝統文化を継承する組織との連携を強化し、文化財の情報発信に努めます。

戦術

1：地域伝統行事やイベント、文化財の活用を支援します。

- ・戦術 1 における指標

- (a) 地域伝統行事または文化財の活用、特に「地域を体験できるコンテンツ造成」に向けた取り組みの総予算の維持または割合の増加。
- (b) 公式観光 Web サイトへの年間訪問数とユニーク訪問者数の増加。

2：栗東市の観光振興による地域の伝統や文化、歴史の正確な描写に取り組みます。

- ・戦術 2 における指標

- (a) 栗東市観光認知度アンケート調査で得られる栗東市のイメージが「歴史文化が豊か」と回答する対象者の割合を高める。
- (c) 地域の伝統や文化財を活用した新規または改善されたプログラムの数。

3：歴史文化的場所、歴史文化資産に対する理解と尊敬を高めます。

- ・戦術 3 における指標

- (a) 栗東市観光認知度アンケート調査における市内スポットで知っているところで歴史や伝統文化に関する施設の回答数増加。
- (b) 市内教育機関や包括連携協定を結んでいる大学の生徒を対象とした、地域の伝統文化教育プログラム活動範囲の拡大。
- (c) 栗東歴史民俗博物館や文化関連団体との連携を発展させる。

行動計画

- ・栗東市の伝統と地域文化を継承させるイベントやプログラムを支援し、市民と来訪者にユニークで思い出に残る体験を提供します。
- ・観光協会会員や市内事業者を含む観光関連業界に、包括的な栗東市の文化トレーニング、カリキュラム、プログラムの情報を提供します。
- ・地域団体や事業者と協力して、栗東市の歴史ある伝統文化や場所への好循環を生み出し、地域の伝統を育むプログラムで来訪者の体験を向上させます。
- ・来訪者の体験を向上させながら、観光関連事業者に機会を創出することにより、地域の伝統文化の継承者を支援します。
- ・観光パンフレットを発行して、市内開催の会議や大会関係者に栗東市の歴史と文化を紹介します。





地域社会との共生

地域社会にとって良いことは観光にとっても良いことです。観光、その貢献、そしてそれが地域社会にどのように影響するかについて、地域社会との効果的なコミュニケーションが重要です。コミュニティプロジェクトに協力して支援する機会が訪れたとき、私たちは皆、集合的に、訪問者の体験を多様化するのを助けることができます。

目標

観光と地域社会がお互いを豊かにすることを確実にする。

地域社会が評価し、栗東市のブランドとイメージに沿った事業展開を支援することにより、住民と地域社会が観光の恩恵を受けるように努めます。これらの事業やイベントについて、市民と来訪者の双方に情報を提供し、お互いの関係を強化し、交流人口や関係人口を増やし持続可能な観光振興と地域社会を構築します。

行動指針

- ・「地域社会にとって良いことは観光にとって良いこと」という前提で動きます。
- ・居住者の生活の質と訪問者の全体的な体験を向上させます。
- ・住民や訪問者がもたらす社会的、経済的、環境的利益のために評価される地域活動を支援するプログラムを支援します。

戦略的選択

- ・来訪者と地域との関係性を強化します。
- ・来訪者の受入、来訪目的となる体験や活動、プログラムを作成することにより地域の文化を育めるよう努めます。
- ・これまでの歴史に敬意を払い、地域の伝統文化の継承、保存を支援します。
- ・私たちのコミュニケーションのリーダーシップの位置は、現在、私たちのコミュニティへの観光の貢献についての地元住民とのコミュニケーションに焦点を合わせています。
- ・私たちは、住民と訪問者に影響を与える安全関連プログラムのリソースとサポートを拡大しています。
- ・新しい目的地管理の重点の一環として、観光の影響を管理するためのより強力で体系的なアプローチを作成する方法を模索しています。

戦術

1：地域住民と来訪者との積極的な交流を提供し、地域の伝統的な文化を共有し、地域社会と観光のより良い関係を構築し強化します。

・戦術1における指標

(a) 市民アンケート調査における「歴史や伝統文化が生かされたまちづくりが推進されている」と回答する市民の割合の増加。

2：効果的なメッセージを生成し情報発信することにより、栗東市の観光が伝統文化を継承させ、環境を保護し、地域社会を支えることについての理解を深めます。

・戦術2における指標

(a) 観光協会アカウントのソーシャルメディアプラットフォームでのリーチとエンゲージメントの拡大。

(b) 観光協会が主催および後援、協力するイベントやプログラムに関するニュース記事の数の増加。

3：来訪者と地域住民の安全を確保し、安全、安心に暮らせるまちとしての評価を維持するための啓発と予防プログラムを支援します。

・戦術3における指標

(a) ハイキングやサイクリングの安全情報に対する来訪者意識の向上を把握するために、安全啓発関連の映像またはメッセージを見たり聞いたりしたことがある割合を測定するアンケート調査項目の追加。

(b) 市民アンケート調査における「安全に安心して暮らせるまちづくりが推進されている」と回答する市民の割合の増加。

行動計画

- ・来訪者の体験を多様化し、この計画の行動指針に沿う効果的な地域活動を支援します。
- ・市内で活動する組織の有効性を強化するために研修や意見交換の機会を提供します。
- ・情報発信を強化し拡散を図り、観光による地域経済への貢献について市域全体に与える影響の幅と深さについて市民や地域メディアへの露出回数を増加させます。
- ・来訪者や市民へ情報を周知するために、ハイキングの安全促進および交通安全プログラムに協力します。
- ・安全性を高め、交通事故や犯罪活動を減らすための啓蒙活動に参画します。
- ・ハイキングコースでの安全確保のために、山岳遭難防止プログラムを支援します。
- ・明日の走井を考える会や絆ネットワークなど地域で活動する市民団体などの催事開催や来訪者受入を支援します。
- ・地震や台風をはじめとした災害などの非常時に対応する能力を強化するため研修および講習に積極的に参加します。
- ・地域社会や行政、事業者とのネットワークを招集して、目的地の管理をサポートし、ハワイのコミュニティへの観光の悪影響に対応するための連携を強化します。





地域ブランドの形成

栗東市は、地域特有の文化と自然の風景で飾られています。来訪者にかかる温かい声が、心を落ち着かせてくれます。この声は、また、来訪者の旅行活動に影響を与え、旅行後の行動や日常生活をより豊かなものへと変化させます。訪れる人に、また来たい、と思わせる仕掛けが必要です。これらのケアと価値の声を尊重する方法について、住民と来訪者とを共感させ、価値の共有化を図ることが重要です。

目標

栗東市の地域特有の伝統や文化と自然環境に焦点を当て、市場に適した方法で、ブランドを形成し強化することで競争力を高め、地域経済の活性化に寄与します。

行動指針

- ・市場に適した方法で伝達される共通のブランドメッセージを使用して、栗東市の優位性を活かせる主要市場領域ごとに効果的に情報を発信します。
- ・地域住民やその組織との関わり、地域の伝統や特有の文化、本格的なアクティビティ、自然環境に焦点を当てることで、周辺地域と差別化を図ります。
- ・現状の来訪者と将来の来訪者となる対象をデータに基づいて分析し深く理解することにより、域内経済の活性化に貢献し、持続的な観光振興が可能な見込み客にマーケティングを集中させます。
- ・関連事業者、特に交通事業者、旅行商品販売業者、宿泊事業者、飲食店事業者との連携を強化しパートナーシップを育みます。
- ・SDG s および MLG s の適切な要素を含め、観光振興を持続可能な開発目標に合わせます。
- ・新たな技術やテクノロジーの進歩を積極的に活用して、施策の効率と効果を高め、対象となる将来の来訪者に適切に伝え持続可能な観光振興を促進します。

戦略的選択

- ・行政と連携し、測定可能な結果に関連付けられたレビューシステムを実装し、関連事業の成果を栗東市観光振興ビジョンの基本理念と基本方針に密接に結び付けることにより、マーケティング計画を管理していきます。
- ・来訪者の安全と持続可能な観光振興を促進するための体験コンテンツを含み、マーケティング計画の中で、より持続可能な開発目標のゴールに焦点を合わせていきます。
- ・栗東市内に所在する施設や開催される催事を適切かつ確実に収集し、それらの情報を一元化して提供します。また、その情報の信頼性を向上させます。
- ・関連事業者や関係団体と協力して、市場の動向を考慮しながら、共通価値の創造により、世界中の地域向けのマーケティング資料の開発を進めていきます。

戦術

1：りっとうのブランドイメージが、地域資源を有効に活用し、独自性のある、持続可能性のある観光振興と一致し、形成していくことが図れているか確認します。

・戦術1における指標

- (a) 栗東市観光魅力度アンケート調査で得られた、「栗東市内の観光スポットをどのくらい知っていますか」の認知件数割合を高める。
- (b) 栗東市観光認知度アンケート調査で栗東市のイメージが「特にない」と回答した割合が28.4%であった評価を改善する。

2：まちの魅力を向上させるだけでなく、いかに磨き上げた魅力を伝えていくかに焦点を合わせ、在住者と来訪者との共通価値を高めていく取り組みに重点を置きます。

・戦術2における指標

- (a) 栗東市観光魅力度アンケート調査で得られた、「市内の観光スポットを勧めたいと思いますか」の観光スポットの愛着度割合を高める。
- (b) 栗東市観光認知度アンケート調査で栗東市の観光スポットで興味のある所が「ない」と回答した割合が36.2%であった評価を改善する。
- (c) 栗東市が有する地域資源を活用し持続的な観光振興が可能な明確なターゲット市場の設定。

3：周辺地域と比較した際、栗東市のブランドイメージを向上させます。

・戦術3における指標

- (a) 栗東市観光認知度アンケート調査における「来訪意欲」項目の評価向上。
- (b) 外部メディアでの掲出回数を増加させる。

行動計画

- ・潜在的な観光客を惹きつけるため、観光協会が所有する公式アカウントで情報を発信し、栗東市への関心を高め、人々を魅了し、この地を訪れたいという欲求を生み出すことを実現します。
- ・責任ある観光マーケティングコミュニケーションプログラムを実施して、旅行前と旅行中、旅行後のすべての場面において、安全で敬意のある具体的な情報を来訪者に提供します。
- ・観光振興ビジョンの基本方針に沿って、来訪者を引き付けるために、栗東市の優位性が高い市場へ働きかけ、地域資源の独自性を活用した観光コンテンツを管理します。
- ・市内を拠点とする事業者や関連団体と協力して、適切なブランドを形成し、維持し、すべての市場関連事業者と調和をとります。
- ・対象分野の専門家と協力して、先端技術の導入を進め、その使用を最適化し、新しいアプリケーションと利用機会を促進します。







参考資料

第六次栗東市総合計画（令和２年）栗東市

第五次栗東市総合計画後期基本計画（平成２７年）栗東市

栗東市観光振興ビジョン（令和２年）栗東市

滋賀県観光入込客統計調査書（令和２年）滋賀県

栗東市観光魅力度アンケート調査（令和３年）栗東市

栗東市観光認知度アンケート調査（令和４年）栗東市

第四次栗東市都市計画マスタープラン（令和２年）栗東市

栗東市シティセールス戦略改訂版（令和２年）栗東市

栗東市地域資源活用ビジョン（平成２７年）栗東市

SDGs への貢献と持続可能な観光の推進に係る取組方針（令和３年）日本政府観光局

マザーレイクゴールズアジェンダ（令和３年）マザーレイクゴールズ推進委員会

STRATEGIC PLAN 2020-2025（平成３１年）HAWAII TOURISM AUTHORITY

2021/22 MARKETING PLAN（令和２年）NORTHWEST TERRITORIES TOURISM

新しい日常における森林活用の意向調査 WEB 調査レポート（令和２年）

森林サービス産業プロモーション共同企業体

森林サービス産業緊急対策事業地域版プロモーション戦略計画（令和３年）

森林サービス産業プロモーション共同企業体

UNWTO 世界観光バロメーター（令和４年）国連世界観光機関

栗東市文化財保存活用地域計画（令和４年）栗東市

シガリズム観光振興ビジョン（令和４年）滋賀県

一般社団法人栗東市観光協会

滋賀県栗東市手原三丁目 1-30 手原駅 2 階

077-551-0126

<https://www.ritto-kanko.com/>

